

令和6年度

枇杷島小学校の教育について



【学校教育努力点について】

夢中で取り組む！びわじまっ子の育成

本校では、昨年度は「伝え合う！びわじまっ子」を主題として、「伝えたいことを明確にして自分の考えを伝えたり、視点を明確にして相手の考えを聞いたりすること」をねらいに、実践を行いました。個に応じた指導の充実やICTなどを最大限に活用することを手立てとして実践を行いました。

個に応じた手立てを講じることで、伝えたいことを明確にして自分の考えを伝えることができました。また、ICTなどを最大限に活用しました。思考ツールを活用することで、情報を整理して、自分の考えを明確にしたり、必要に応じて話型の活用やアドバイスタイトムなどの指導の個別化を進めたりすることで、一人一人の子どもが伝える内容を明確にして伝える姿が見られ、一定の成果が得られました。

しかし、伝えることに重点を置いたことで、聞く側の目的や視点が明確ではなく一方的に伝えるだけになってしまう場面も見られました。そのため、伝え合う必要性を一人一人に感じさせるために子どもたちが夢中で学びに向かう場面をもたせることが必要であると考えました。

令和3年発出の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」の中では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながることを示されています。これを踏まえて、令和5年発出の「ナゴヤ学びのコンパス」では、「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」という本市が目指すべき子ども像が示されました。その中で、「自分に合った方法やペースで学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」という重視したい学びの姿も示されています。そのため、探究的な学習（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）の仕方や場の工夫を通して自分で選択した学習課題を夢中で追究したり、時には友達と協働したりして、課題を解決していくことができると考えます。

そこで、今年度は、「夢中で取り組む！びわじまっ子」の育成を目指します。「夢中で取り組む」姿とは、探究的な学習の中で、子どもが自らの興味・関心に応じて、学習内容を自己選択・自己決定し、多様な他者と協働しながら、課題の解決に向けて粘り強く学習に向かうことです。そのため、まずは、子どもに挑戦してみたいと思わせる課題設定の工夫、次時の課題を見付けることができるような振り返り活動の工夫を手立てとして講じることで夢中で取り組む楽しさを味わうことができるようにしたいと考えます。